

未来につなぐ、私たちのストーリー



街の鼓動に敏感です

朝日信用金庫

2026年1月21日

「サステナビリティ・リンク・ローン」による融資契約締結について

朝日信用金庫（本部 東京・千代田区／理事長 伊藤康博、以下「当金庫」）は、持続可能な地域社会の実現と、お客さまの脱炭素経営への取り組みに貢献するため、2026年1月21日（水）に以下の事業者さまと「サステナビリティ・リンク・ローン（以下、「SLL」）」の契約を締結したことを、お知らせいたします。

当金庫では今後も、持続可能な地域社会の実現に金融面から貢献するため、さまざまな金融サービスを通じて、お客さまのニーズにお応えできるように努めてまいります。

【企業概要】

事業者名	株式会社オプナス
代表者名	峯村 陽一
本店所在地	東京都中央区日本橋浜町2-17-8
事業内容	鍵およびセキュリティ製品の製造
設立	1948年8月
会社HP	https://www.opnus.co.jp/

【契約概要】

契約日	2026年1月21日（水）
取扱店	日本橋支店：東京都中央区日本橋茅場町1-2-18 日本ビルディング別館7階
KPI	当社におけるCO ₂ 排出量の削減率（Scope1+Scope2）
SPT	CO ₂ 排出量の削減
フレームワーク	朝日信用金庫サステナビリティ・リンク・ローンフレームワーク （株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得）

SLLは、事前に定めた重要な評価指標（KPI）に対して、野心的なサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）を設定し、SPTの達成状況に応じて金利が変動する融資商品です。朝日信用金庫のSLLは、お客さまとともに「脱炭素（カーボンニュートラル）」を目指していくために、KPIを「CO₂排出量の削減率」、SPTを「CO₂排出量の削減」として設定し、その達成状況に応じて金利が変動する仕組みとしています。

なお、朝日信用金庫が策定したサステナビリティ・リンク・ローンフレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センターより、サステナビリティ関連の原則等に整合しているとの評価を得ています。

事業者の「想い」

私たちは、95年以上前に創業してから、
銀行の金庫用から住宅用に至るまで、
最高の安全性が求められる「鍵」を生み出し、
信用を築き上げる努力を重ねてきました。

製品の外観からは気づかれなくとも、
「皆さまの大切なものを守りたい」
という思いを持ち続けています。

今はその思いを、
「最も大切な地球環境を守る」
という脱炭素への取り組みへと、つなげています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【 事業者さま（以下、「当社」）について 】

当社は1930年に東京・荒川区で旋盤加工品の製造業として創業（以降足立区、千代田区を経て、現在の本社は中央区）した後、1948年より日本銀行をはじめとした金融機関の金庫室扉向けダイヤル錠や貸金庫錠などの生産を開始しました。時代の変遷とともに、取扱商品は錠前から宅配ボックスや非接触エントランスシステムなどシステム製品にまで広がり、使用される用途・業界は金融機関、自動販売機、オフィス家具、住宅、マンション、アパート、温浴施設、スポーツ施設、ホテルにまで広がっています。

当社は「セキュリティを愉しくしよう！」というスローガンを掲げています。人がセキュリティの必要性を感じるのは、不安や緊張感を感じているときです。まずは当社の製品がお客さまの大切なものを「物理的に守る」状態をつくりあげ、そしてその不安や緊張感を「安心や愉しさ」「心の豊かさ」にまで高めることを目指しています。

製品の特性上、常に最高レベルのセキュリティを求められる中、「見えないところでも万一の手口を考えた設計」「永く使っていただくための素材や工夫」「トラブルのあったときに対処できる工夫」など、「お客さまに安心して、永く、愛着を持って鍵を使っていたきたい」という思いをもって、製造を続けてきました。簡単な操作で従来使用していた鍵を無効化して、別の鍵を有効にする「MMX(キーチェンジシステム)」など、大切な人や財産を守るという本質は外さずに、独創的なアイデアから新たな製品を生み出すことに挑戦し続けています。



「MMX(キーチェンジシステム)」



【 当社のサステナビリティ方針について 】

当社は「大切な人や財産を守るためにも、環境マネジメントシステムを確立し、その運用を通じて、よりよい環境づくりと地球に優しい企業を目指す」として、以下の宣言を行っています。

1. 建築・自動販売機向けなどの錠前、ホテル・レジャー施設用セーフティーボックスなどのセキュリティ製品、貸金庫錠などの受注から納品に至る活動を通じて省資源・省エネルギーおよび環境負荷の低減に努めます。
2. 国・地方公共団体等の環境規則を遵守すると共に、当工場の生産活動による環境へ及ぼす影響を予測し、評価し、環境保全の維持向上に努めます。
3. 生産工程における環境管理は一人ひとりが自覚と責任を持ち、自主管理の徹底に取り組みます。
4. 地域社会との対話を大切にいたします。
5. この環境方針は社外からの要求に応じ、公開いたします。

<気候変動に対する考え方、対策および方針>

気候変動が引き起こす自然災害は、当社の事業活動にも大きな影響を与える可能性がある重大な課題であるとの認識に基づき、温室効果ガス（GHG）排出量の削減につながるエネルギー消費量の削減、オンサイトPPAモデルによる太陽光発電設備の導入（2024年7月・秩父工場）、環境に関する法令等の遵守などに取り組んでいます。

<取り組み目標>

当社は2024年8月に、2030年に向けたGHG排出量削減目標が、地球温暖化対策への国際的な枠組みである「パリ協定」で掲げられた目標に整合する水準であるとして、SBT (Science Based Target) イニシアチブよりSBT認定を取得しています。

- ・ 2030年削減目標：Scope1・Scope2のGHG排出量を、2022年比で42.0%削減する

【 当金庫の評価 】

当社は、SLLにおけるSPTのほか、自社のサステナビリティ方針において、気候変動に対する高い問題意識と、GHG排出量削減に向けた具体的な対策および取り組み方針が示されています。また、具体的な取り組み目標を掲げており、今後も適時、適切に对外開示されます。

また「ISO14001」の取得など、従前より高い意識をもって環境問題に取り組んでいましたが、パリ協定の目標（世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する）が求める水準と整合した企業のGHG排出量の削減目標に準拠して、自社の排出量削減目標を掲げております。このことから、脱炭素の取り組みに対する強い意志が感じられます。

当金庫は、当社の環境課題解決へのお取り組みに敬意を表し、またそのお取り組みに対して貢献するために、SLLの融資契約を締結いたしました。

今後も当社のお取り組みに貢献できるよう、努めてまいります。

以 上